

平成31年度船員災害防止実施計画について③

今週は、「船員災害防止に関し重点を置くべき船員災害種類に対応した取り組み(対策)」について紹介します。

▽作業時における死傷災害と対策

『傾向』

- ・転倒(18%)、「はさまれ」(18%)、「動作の反動・無理な動作」(16%)で半数を占めている。
- ・転倒は、甲板上の通路、階段などでのつまずき・滑りなどによるものが多い。
- ・はさまれは、用具や工具によるはさまれが多く発生し、漁ろう装置、漁具・漁網、甲板装置など動力機械にはさまれたものが全体的に多い。
- ・動作の反動・無理な動作は、用具・工具使用時の無理な動作や、不用意に飛び降りた際によるものが多い。

『対策』

船内安全衛生委員会や作業前ミーティングなどを通じて作業基準や手順の確認、ヒヤリハット事例集の活用やKYT(危険予知訓練)、KYK(危険予知活動)などの導入を含めたりリスク低減対策の推進、若年船員などに積極的な安全衛生指導の実施を行う。

・転倒

船内の整理整頓や床面に滑り止めテープを貼る、滑り止め効果のある靴を履くなどの対策を行う。

・はさまれ

動力部から安全な距離を保つ、作業前ミーティングで作業に伴う危険情報を共有するなどの対策を行う。

・動作の反動・無理な動作

過度の負担がかかる作業は、無理せず作業員を増やして対応する。

▽死亡・行方不明率の高い災害と対策

『傾向』

- ・海中転落(44%)と海難(15%)で大半を占める。
- ・海中転落の特徴として、死亡率が非常に高い(79%)。

『対策』

・海中転落の対策としては、作業用救命衣など保護具の使用、乗下船時の歩み板の使用、波浪発生時の対策、生存対策講習会受講を推進するなどの対策を実施する。

▽漁船における死傷災害と対策

『傾向』

- ・一般船舶よりも約2倍と災害発生率が高くなっている。
- ・漁ろう作業や漁具・漁網取り扱い作業などの漁船特有の作業中に多く発生(64%)している。

『対策』

- ・漁具・漁網などの投下作業中は安全確保対策を行う。
 - ・甲板などの清掃(魚の血のりなど)により床の滑りを防止、ロープを張るなどの「転倒」防止対策を行う。
 - ・作業中であっても、足下のロープはできる限り整理するなど「はさまれ」防止対策を行う。
- 来週は、「生活習慣病などの疾病防止」及び「パワーハラスメントの防止とメンタルヘルスの確保」に対応した取り組み(対策)」について紹介します。

平成31年度船員災害防止実施計画

<http://www.mlit.go.jp/common/001274378.pdf>